

平成19年4月24日

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
委員長 北原和夫

第38回国際物理オリンピック (IPh02007) イラン大会
日本代表選手決定について

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会（委員長：北原和夫（国際基督教大学））は、第38回国際物理オリンピック（期間：2007年7月13日～22日 開催国／都市：イラン／イスファハン）に派遣する日本代表5名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。わが国は昨2006年、第37回国際物理オリンピック IPh02006 シンガポール大会（86の国と地域が参加）に初めて日本代表を派遣し、銀メダル1、銅メダル3、入賞1という初参加としては好成績をおさめることができた。

今回日本代表となった5名は、昨年夏に行なわれた「第2回全国物理コンテスト『物理チャレンジ2006』」において優秀な成績を収めたことにより、470名の参加者の中から代表候補者として選抜され、昨秋より半年間継続して行われた「理論問題通信添削」、冬休みに行われた「冬季実験実習合宿」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て選考決定された。

5名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、2007年7月の「第38回国際物理オリンピック (IPh02007) イラン大会」派遣に備える。

第38回国際物理オリンピック「IPh02007」日本代表選手

氏名	フリガナ	性別	在学学校（所在地）	学年
高倉 理	タカクラ サトル	男	灘高等学校（兵庫県）	3年生
西口 大貴	ニシグチ ダイキ	男	大阪星光学院高等学校（大阪府）	3年生
増田 賢人	マスダ ケント	男	麻布学園麻布高等学校（東京都）	3年生
村下 湧音	ムラシタ ユウト	男	灘高等学校（兵庫県）	2年生
森田 悠介	モリタ ユウスケ	男	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	3年生

※ 以上5名 氏名50音順

<この件についての問い合わせ先>
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局
東京都千代田区北の丸公園2番1号
財団法人日本科学技術振興財団内
TEL 03-3212-8518 FAX 03-3212-7790
担当： 谷本、清田
E-Mail: physchal@jsf.or.jp
URL: <http://www.phys-challenge.jp>

代表選手のコメント

高倉 理：

代表に選ばれて本当にうれしいです。選ばれた以上、一層の勉強に励み、メダルを目指したいと思います。また、なかなか行くことのできないイランの生活に触れたり、世界中の物理好きの人々と交流することが楽しみです。

西口大貴：

日本代表に選ばれ非常に驚いています。大会に向けて、今以上に知識と思考力をつけて、この機会を最大限に活かしたいと思います。また、イランに安心して行けるように国際平和を祈っています。

増田賢人：

貴重な機会なので実りあるものにできるよう努力したいです。

村下湧音：

世界の人々と友好関係を持つとともに、日本代表の仲間たちとの親交を深める有意義で将来につながる旅にしたいと思います。

※ 村下湧音は、昨年第 37 回大会に続き 2 年連続 2 回目の日本代表。

森田悠介：

自分の持てる力を精一杯出し切りたいと思います。

「国際物理オリンピック (International Physics Olympiad)」について

<http://www.jyu.fi/tdk/kastdk/olympiads/>

国際物理オリンピックは、1967 年にポーランドのワルシャワで第 1 回大会が開催された物理の国際的なコンテストである。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次世代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、毎年開催されている。参加資格は、年齢が 20 歳未満で且つ大学などの高等教育機関に在籍していないこととされている。

各国から最大 5 名の選抜された代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10 日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ 5 時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じてほかの国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

大会への参加国は毎年増加の傾向にあり、2005 年のスペイン・サマランカ大会には、72 の国と地域から 300 名以上の生徒等が参加。2006 年のシンガポール大会には 86 の国と地域（オブザーバー参加国を含めると 93）から 350 名近い生徒等の参加があった。

我が国は 2006 年シンガポール大会に初めて日本代表生徒 5 名を派遣し、銀メダル 1 名、銅メダル 3 名、入賞 1 名という初参加としては好成績をおさめることができた。

今回発表した日本代表 5 名は、イラン・イスファハンで開催される「第 38 回国際物理オリンピック」に派遣される。

なお、2008 年には「第 39 回国際物理オリンピック」がベトナム・ハノイで開催される予定。

◆ 「第 38 回国際物理オリンピック 『IPhO2007』」 (<http://www.ipho2007.ir/Main.asp>)

名 称： 38th INTERNATIONAL PHYSICS OLYMPIAD, IPhO2007

会 期： 2007 年 7 月 13 日～7 月 22 日 10 日間

開催国／都市： イラン／イスファハン

「物理チャレンジ」について

「物理チャレンジ」は、20歳未満の高等教育機関入学前の青少年を対象とする全国規模の物理のコンテストで、世界物理年を記念して2005年8月に第1回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2005」が開催された。以後毎年開催している。

「物理チャレンジ」は、以下の「第1チャレンジ」「第2チャレンジ」から構成される。

第1チャレンジで参加者は、全国一斉に実施される「理論問題コンテスト」と自宅や学校で取り組む「実験課題レポート」にチャレンジする。

第2チャレンジは、第1チャレンジで選抜された約100名が夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式によるコンテストとなっており、理論問題コンテストと実験問題コンテストにそれぞれ5時間ずつチャレンジし、成績最上位6名に金賞、続く12名に銀賞、さらに続く12名に銅賞を授与する。

なお、第2チャレンジ合宿の期間中にはコンテストばかりでなく、第一線研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と実行委員（物理学研究者）との語らいを深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成としている。

また、「物理チャレンジ」は、国際物理オリンピックに派遣する日本代表選手の選考を兼ねており、第2チャレンジでとくに優秀な実力を示し、かつ翌年の国際物理オリンピックの参加資格を満たす若者は、代表候補者としてさらに合宿や添削などトレーニングに参加してもらい、うち5名を日本代表として国際物理オリンピックに派遣する。これは「物理チャレンジ」の第3のチャレンジともいえる。

なお、第2チャレンジの合宿形式のプログラムは、「国際物理オリンピック」のスタイルに準じた構成となっている。

今年開催の物理チャレンジ（国内コンテスト）

第3回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2007」開催予定

＜第1チャレンジ＞	2007年 3月	参加募集要項およびポスターの配布	
	4月 1日（日）	参加申込受け付け開始予定	
	4月 20日（金）	参加申込締め切り	
	5月 31日（木）	実験課題レポート提出締め切り	
	6月 10日（日）	理論問題コンテスト（全国51会場で実施）	
＜第2チャレンジ＞	会 期：	2007年7月29日（日）～8月1日（水）3泊4日	
	会 場：	筑波大学及び筑波研究学園都市ほか茨城県内諸施設	
	プログラム：	第1日	開会式 講演会
		第2日	理論問題コンテスト（5時間） 交流イベント
		第3日	実験問題コンテスト（5時間） 研究施設見学
第4日		表彰式 閉会式	

※ 第2チャレンジは、第1チャレンジにより選抜された100名が参加。
以上